



# 海外オフィス、相次いで開設

## 海外拠点6カ所に 米ポルトランド、ロシアモスクワ

本学は5月から6月にかけて、海外オフィスを米国とロシアにそれぞれ開設した。両国ともに本学のオフィスが設置されるのは初めてで、本学の海外拠点は既存のヘルシンキや北京などと合わせ6カ所に増えた。留学や研究交流、学生交流を促進する取り組みを拡大していく。

### ポルトランド 交流の活性化へ

米国に開設されたのは「北米ポルトランドオフィス」。には同大学の日本人スタッフが常駐し、本学から派遣された日本人留学生のサポートや、現地情報の収集などに取り組む。

同大学は1972年に米国の大学で初めて本学との大学間交流協定を締結。両大の間ではこれまで、シンポジウムでの本学への教員派遣や、本学からの留学生派遣といった交流がある。45年を超える長いつながりから同大学内への開設が決まった。

オフィスの所長に就任した本学国際連携機構副機構長

### ロシアモスクワ 日本留学促進を担う

ロシアの首都モスクワのモスクワ国立大学内には5月31日、「ロシアモスクワオフィス」を同大学と共同で開設。留学の促進に主眼を置き、本学のみならず日本中の大学へ同国からの留学生を増やす活動を行うのが大きな狙いだ。オフィスには本学特任教員として新たに採用した留学コーディネーター2人などのスタッフが常駐。オフィスの所長には本学アイヌ・先住民研究センターの

加藤博文教授が就任した。日本留学を促進するのは、文部科学省に本学が採択された同国などで留学生拡大を目指す事業の一環。留学を目指す事業の一環。留学コーディネーターが同国の学生一人一人のニーズを聞き、それに合う形の留学を支援する。この際、東京や大阪などの大学も紹介する。同国の複数都市で留学フェアも開催し、日本留学をPRする。また大学生のみならず高校生にも日本留学を提案。同

**6月号**  
 <編集・発行>  
 北海道大学新聞 編集部  
 <URL>  
 hokudaishinbun.com  
 (お問い合わせ・情報提供もこちらから)  
 次の発行予定は7月(北大祭特別号)

**CONTENTS**

- ・フィンランドデー開催 ……2面
- ・キラリ！北大生(新連載) ……2面
- ・特集・北大ライフ 危険はすぐそばに ……3面
- ・ニュースDIGEST ……3面



**北大祭開催**  
**3日間 10万人来場**

7日から9日にかけての3日間、第61回北大祭が「+1(プラスワン)」のテーマのもと開催された。来場者は昨年を上回り、3日間で延べ約10万人。留学生を含む学生らによる模擬店のほか、YOSAKOIソーランをはじめとするイベントや各学部・学科の企画などが行われた。

本紙では特色ある模擬店や企画、イベントなどを特集した「北大祭特別号」を発行予定。

の川野辺創教授は「留学生派遣や交流活動を活性化させるために力を尽くしたい」と意気込む。同オフィスでは同大学のみならず、サンディエゴ州立大学やシアトルのワシントン大学など米西海岸の他協定校との交流促進もしていきたいと考えた。

ポルトランド州立大には横濱国立大学も2017年にオフィスを構えており、「日本側の複数校での連携も視野に入れていく」(川野辺教授)という。

国の高校を卒業して直接日本の大学へ留学するという形を示す。加藤教授らが実施している現地の高校での意識調査では、意外にも高校卒業後に海外を考えている生徒は多く、日本留学に関心を示すという。

同国から大学など日本の高等教育機関へ留学した学生は18年で、約5500人。事業ではこれを20年までに1000人、23年までに1500人に引き上げるとの目標を掲げている。

本学が日本全体の取り組みとして留学を促進するの

はサブサハラ(サハラ以南のアフリカ)に続きロシアが2カ所目。これら地域は日本政府から留学促進における重点地域に指定されている。重点地域にある6つの拠点のうち本学が2拠点を担うことになり、役割は大きい。加藤教授は「何よりも優秀な留学生をリクルートすること、力を注ぎたい」と話している。

皇のものとしたとみられている。このように歌が詠まれた年代についても不明瞭な部分がある。

◆  
 本学はスタッフが常駐する海外オフィスを東南アジアに開設することも検討している。東南アジアには現在、タイ、インドネシア、フィリピンの3カ所に本学農学研究院、理学研究院が運営するオフィスがあり、それらを統括する役割を担うものとして構想しているという。

**本学教員に聞く 「令和」典拠の万葉集**

4月1日、菅官房長官によつて新元号が「令和」と発表され、5月1日より元号が「平成」から「令和」に変わった。本紙では、新元号「令和」の典拠となった「万葉集」について、専門に研究している本学大学文書館の広瀬公彦特任助教に話を聞いた。

**万葉集のミステリー**

万葉集は、7世紀から8世紀の歌を集めた現存する日本最古の和歌集であるが、その

の詳細は不明な部分が多い。例えば、約4516首あるうちの最後の歌は759年に詠まれていることから、万葉集が編まれたのはこれ以降

かつ奈良時代であることは分かっている。だが、具体的に編まれた年代は不明だ。また1首目の歌については、5世紀を生きた雄略天皇が詠んだものとされている。しかし、これについては万葉集に権威付けをするために後世に作られた歌を雄略天皇

今回典拠となったのはこの場面そのものの序文に当たる「初春の令月にして、気淑く風和ぎ、梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫らす」という部分である。この序文は宴の日の情景を表した文であり、「令」には「素晴らしい」という意味があり、「和」には「おだやかである」という意味があるという。詠み手が明記されている32首の歌とは違い、序文自体の作者は明確に示されていない。(2面に続く)

# 北大の「今」を発信中!

ウェブサイト (THE MAINSTREET) | Twitter (@HokudaiShinBun)

THE MAINSTREET | Powered by 北海道大学新聞編集部

# 【キラリ！北大生 第1回】(新連載) 英語プレゼンコンテスト入賞 原点は「とりあえずチャレンジすること」 山下藍子さん(経済学部3年)



昨年のコンテストでプレゼンテーションする山下さん

世界各地から優れた学生が集う北海道大学。今回スタートする新連載企画「キラリ！北大生」では、各方面で活躍している本学在学生の生い立ちや今後の展望などを、「これまで」「これから」の時系列に沿って紹介していく。

今回取り上げるのは、昨年「第7回全国学生英語プレゼンテーションコンテスト」(神戸外語グループ・読売新聞社主催、以下「プレゼンコンテスト」)で奨励賞を受賞し、日露学生フォーラムなど学生間の国際交流にも精力的に取り組んでいる山下藍子さん(経済学部3年)だ。

「これまで」バックパッカーの経験からプレゼンコンテスト出場へ  
山下さんが英語を学び始めたのは中学生の時。帰国子女など海外にルーツを持つていたわけではなかったが、国境なき医師団に憧れて英語部に入部。英語そのものよりも英語の話し方やロジックの習得に力を注ぎ、中学では県2位、高校では全国大会出場の実績を残した。本学に入学した後は「限られた時間の中で今しかできないことをしたい」と、バックパッカーとしてこれまでアジア・ヨーロッパを中心に25カ国を訪問。意外にも、英語の成績は「北大生の平均くらい」だという。

「これから」夢への挑戦「自分にはできない」では終わらせない  
将来は国際機関で働くことが目標だという山下さん。国際協力を通じて女性や子どもたちの権利を守ることに強い関心を持ち、「誰かを笑顔にしたり、苦しい人を救ったりする存在でありたい」と意気込む。今年9月からスイスのジュネーブ大学への交換留学が決まっている。留学後にはケニア・ナイロビでインターンシップを計画。現在は授業で外国人学生との議論やプレゼンテーションに磨きをかけるなど、準備に余念がない。

「これから」夢への挑戦「自分にはできない」では終わらせない  
山下さんの行動力の源泉は「自分に勝ちたい」という思い。人生の有限さを高校生の時に感じ、「自分がやりたいことを明確にし、今の自分が何を見て、何を

「途中からでも読んで」  
新元号制定で注目の集まった万葉集。全二〇巻からなるが、巻ごとに性質は全く異なり、年代順・四季・歌物語など様々だ。広瀬特任助教は「初め(巻一)から読む必要はないので、この機会に万葉集を読もう」と思った人は、自分の興味に合わせて途中からでも読んでほしい」と話した。

タイ・アユタヤ遺跡にて  
通しているタナカと呼ばれる木。現地では日焼け止めとして広く使われているが、原料を自前で加工するのが一般的で商品化はされていなかった。

本選出場が決まってからの1カ月間でアイデアを具体化。皮膚がんに関するデータの調査に始まり、実用化に向けての実証実験までこぎつけた。実験にあたっては本学薬学部・農学部の教員にも協力を仰いだ。10分間のプレゼンテーションを覚えたのは本選の2日前。質疑応答の準備が不十分だったとしつつも、上位10組に食い込んで奨励賞を受賞した。

「これから」夢への挑戦「自分にはできない」では終わらせない  
実感が何よりの活力。「自分にはできないんじゃないか」で終わってしまうのはもったいないと、夢への挑戦に心を躍らせる。

「これから」夢への挑戦「自分にはできない」では終わらせない  
なお、フィンランドディ終了後も関連企画であるフィンランドディ関連資料展示は北図書館で7月上旬まで行われる。

「一面のつづき」  
国書の出典は初  
今回の元号制定にあたり、歴代で初めて国書がその出典となった。安倍首相は談話にて、万葉集を「我が国の豊かな国民文化と長い伝統を象徴する国書」としている。これについて広瀬特任助教は「日本の国民文化は、外来のものを摂取するという特徴をもつもの

である」と話す。その特徴は今回の典拠となった「梅花の歌」にもあらわれているという。この場で詠まれている「梅」というのは古い歌には登場していない外来のものである。その梅を外国からの窓口である大宰府にて、都で日本文化を培ってきた官人たちが愛でている。ここで日本古来の文化と外来の文化との融合が果たされているのだという。

「途中からでも読んで」  
新元号制定で注目の集まった万葉集。全二〇巻からなるが、巻ごとに性質は全く異なり、年代順・四季・歌物語など様々だ。広瀬特任助教は「初め(巻一)から読む必要はないので、この機会に万葉集を読もう」と思った人は、自分の興味に合わせて途中からでも読んでほしい」と話した。

第4回フィンランドデー開催  
国交樹立100周年祝う  
フィンランドの文化に触れるイベント・フィンランドデーが15日、本学学術交流会館で開催された。フィンランドデーはフィンランドで毎年6月頃に開かれる伝統的な祭、「夏至祭」の時期に合わせて行われるイベントで、今年で4回目となる。

イベントは2部構成の講演と関連企画からなる。講演では本学教授のほかサンタの村として有名なロヴァニエミに出生や留学などで縁のある演者が登壇。昨年と同様にサルミアッキ(札幌カンテレクラブ)による

フィンランドの文化に触れるイベント・フィンランドデーが15日、本学学術交流会館で開催された。フィンランドデーはフィンランドで毎年6月頃に開かれる伝統的な祭、「夏至祭」の時期に合わせて行われるイベントで、今年で4回目となる。

記念行事としても開催  
今年はフィンランドと日本の国交樹立から100周年を迎える。節目の年を迎えるにあたって今回はその記念行事としても執り行われ、規模が拡大。そのため、例年にはなかったフィンランド関係史の講演がなされたほか、今年12月に新千歳空港に就航するフィンエア関連展示が行われるなど充実

した内容となった。  
イベントを企画した本学欧州ヘルシンキオフィス田畑伸一郎所長は「北海道とフィンランドは気候などで共通性がある。このイベントで学生や市民の方にフィンランドへ関心を持ってもらえれば」と期待を寄せた。



サルミアッキによるカンテレの演奏



北大カフェプロジェクトによる出店も行われた

5月北大生協書籍部売上ランキング  
(マンガ、教科書、語学参考書などを除く)

一冊書	書名	著者名	出版社
1	ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方	石井一成	ナツ社
2	FACTFULNESS	ハンス・ロスリング	日経BP社
3	ツーリングマップル北海道 2019		昭文社
4	新北海道の花	梅沢俊	北海道大学出版会
5	B2年生まれ、キム・ジヨン	チ・ナムジュ	筑摩書房
6	死にたいを求めて生きているの	朝井リョウ	中央公論新社
7	北海道樹木図鑑	佐藤孝夫	星雲社
8	ワイドゲンシユタイン論理哲学論考	古田徹也	KADOKAWA
9	北海道で奇跡の絶景に出会う旅		KADOKAWA
10	余物語	西尾維新	講談社

文庫	書名	著者名	出版社
1	夜は短し歩けよ乙女	森見登美彦	角川書店
2	サブマリ	伊坂幸太郎	講談社
3	蜜蜂と遠雷 上下	豊田隆	幻冬舎
4	物質と記憶	アンリ・ベルクソン	講談社
5	罪の声	塩田武士	講談社

***	書名	著者名	出版社
1	日本の地方政府	曾我謙悟	中央公論新社
2	平成時代	吉見俊哉	岩波書店
3	マキアヴェッリ	園子生治輝	岩波書店
4	歴史戦と思想戦	山崎雅弘	集英社
5	不道徳的倫理学講義	古田徹也	筑摩書房

**情報求む** 話題の学生・教員、面白い取り組み——  
北大に関するあらゆる情報を募集しています  
メール⇒hokudaishinbun@gmail.com またはウェブサイトのcontactへ  
※いただいた情報を活用できない場合もありますので、あらかじめご了承ください

**THE MAINSTREET**  
Powered by 北海道大学新聞編集部

# 自転車事故 ルール違反散見 乗り方見直して

南北約1・2キロに伸びる本学メインストリートでは毎日、多くの自転車が行き交う。広大な本学札幌キャンパスで過ごす学生にとって自転車は必須アイテムの1つだ。そんな自転車には事故のリスクも伴っている。

北海道警札幌北署によると本学構内では今年、人身が絡む自転車事故が14日までに2件あった。バックしている車に衝突したケースと、出会い頭でぶつかったケースだったという。過去5年間での事故をみると、最も事故が発生していたのは中央食堂近くの交差点付近で5件。北部食堂付近が2件で続いた。



自転車運転時の注意点について札幌北署の担当者は「車道の左側を通行することが重要だ」と話す。本学構内では歩道や、右側の車道を走っている自転車も散見されたという。このほか、イヤホンをつけながら自転車に乗る人も多く、「車の音や周りの危険をすぐに察知できないのでやめて欲しい」と呼びかけている。

# 自転車盗難 教養棟付近で多発 短時間でも2ロツクを

自転車を利用する学生が多い分、自転車の盗難被害も多く発生している。北海道警によると、札幌キャンパス内で発生した盗難被害件数は2016〜18年の3年間で220件。本学を管轄する札幌北署の管内でも「北大構内は自転車が多く、盗難数も多い(担当者)」と集中している場所であり、盗難を防ぐためには、自転車に2個以上カギをかける、短時間でも自転車から離れたときは施錠するなどの対策が必要だ」と話す。

自転車事故・盗難、飲酒事故——  
キャンパスライフには思わぬところに危険が潜んでいる。本学で学生生活を送るにあたって注意すべきことは何か。現状とその対策について取材した。

# 北大ライフ 危険はすぐそばに

## 飲酒事故 救急搬送、大幅増加 節度のある飲み方を

飲酒には会話や円滑にするなどの効果があることが知られており、学生は、部活・サークルのメンバーや友人などと酒をくみ交わし親睦を深める。だが、そんな飲酒にも危険はひそむ。適量を超えた飲酒は命に関わる事態を引き起こす可能性がある。過度な飲酒による本学学生の救急搬送人数は2年前に急増した。



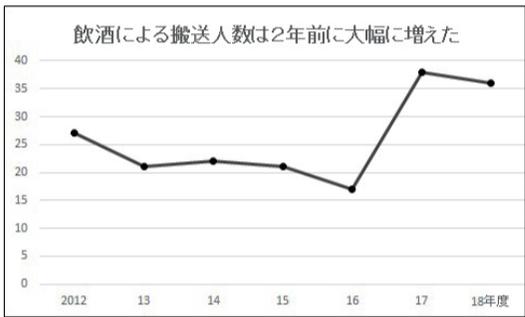
本学学生が過度な飲酒で救急搬送される場合、搬送先は北大病院に指定される取り決めがある。2017年度の搬送人数は38人を記録し、17人だった16年度から大幅に増えた。18年度も36人と、高止まりだ。今年度も4、5月ですでに6人が運ばれた。

によると、一番多いのは飲酒が苦手でない人が、疲労や体調不良で事故の起こりやすい状態で飲んだり、解感から飲みすぎてしまったりしたケース。致死量を超え飲酒していても、飲酒時にはその自覚がなく、気がついたら病院のベッドの上だったという人が多いと

いう。過度な飲酒を巡っては過去に死亡事故に至った事例もある。13年7月、複数の部活の合同で開かれた懇親会が終了した後、参加していた本学の男子学生が死亡した。男子学生は2軒の飲食店で過度に飲酒し泥酔。周囲の学生が自宅に送ったものの、その後1人になり吐物をのどに詰まらせ死亡した。血中アルコール濃度が高く、急性アルコール中毒だった。

それ以来、死亡事故は発生していないが、搬送人数は2年前に急増し、前年度も比較的多い状況が続いた。急増の詳しい理由は不明だが、死亡事故から約6年が経ち飲酒事故防止への個人々の意識が薄まった可能性はある。

学生支援課は「節度のある飲み方をしてほしい」と呼びかけている。周りの人が飲酒で体調を悪くした場合、どのような対処がとれるか。本学保健センターの内科担当看護師によると、千鳥足になったり、吐き気を催したりする酩酊の状態になった人がいたら一人にしないことが重要という。誰かがそばに付き添い、吐物をのどに詰まらせないよう横向きの姿勢にする、体温が下がるため衣類などをかけるなどの対応が求められる。



# ニュースDIGEST

4/7 名和総長にパワハラ疑い  
第三者による調査委設置

本学の名和豊春総長が大学職員に対しパワハラスメント(パワハラ)をした疑いがあると、第三者による調査委員会が設置され審議を行っていることが本学への取材でわかった。

4/16 広域複合災害研究センター  
開所式実施

本学は「広域複合災害研究センター」を4月1日付で設置し、同16日に開所式を行った。センターでは文理にまたがる多分野の研究者らが連携し災害予測・対策について研究する。センター長の農学研究院・山田孝教授は「(災害に関する)社会的な仕組みなどを積極的に提言できるよう取り組む」と話した。

5/10 新入生対象にアンケート  
本紙実施 新歓について

新入生を対象に本紙が実施したアンケート調査で、9割以上の新入生が新歓に参加し、その際、団体の雰囲気重視することなどが分かった。

5/11 子どもが夜遅く食べると  
虫歯になりやすいを証明

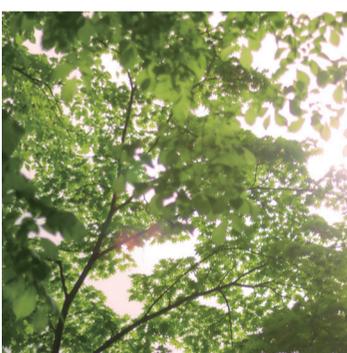
本学歯学研究院の八若(やわか)保孝教授らの研究グループは夜型の生活により小児が虫歯になるリスクが高まると発表した。

5/19 北大東京ジンパ2019  
開催、来場者千人超

東京・立川の国営昭和記念公園で昨年に引き続き今年も「北大東京ジンパ」が開催され、本学伝統のジンギスカンパーティーで卒業生らが交流した(実行委員会主催)。7回目を数える今年には参加者数が初めて千人の舞台を突破した。

5/11 フロア駐日EU大使が  
本学で講演

パトリシア・フロア駐日欧州連合(EU)特命全権大使が本学で講演を行った。EUが国際社会の中で担う役割に加え、EUと日本の特筆すべき関係性についての解説が行われた。



季節の葉  
見上げた先には新緑の木漏れ日があった。  
美しい輝きに、目が離れない。  
(教養棟近くにて撮影)  
photo by 北大写真部・宮崎俊明

お知らせ  
北大新聞メンバーが執筆した記事が4月17日付の北海道新聞「道新夢さぼ」に掲載されました。今後2～3回のペースで寄稿する予定です。